

(国語)

「言語力の基礎・基本の定着をめざした国語科指導の在り方」

～「読むこと・書くこと」領域を中心にして～

大阪市立西三国小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校のめざす子ども像「学ぶ意欲をもち、人と豊かに関わるしなやかな子」を育てるために、昨年度から国語科を研究教科とし、「言語力の基礎・基本の定着をめざした国語科指導の在り方」という主題のもと2年間、研究を進めてきた。全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査の結果の分析から、本校の子どもたちは「書くこと」や「読むこと」に課題があることが明らかになった。これらの課題解決をめざし、書く力を高めるためのステップとして、「文章の内容や問われていることを正確に読み取って理解する力」を高める必要があると考え、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

昨年度の「読むこと」領域を中心にした研究を通して、次の3つが課題として明らかになった。1つ目は、指導者が単元のねらいに迫り、子どもたちの思考を促す発問をすることである。2つ目は、指導者が読む観点を提示してから音読することや要旨を掴んだり文脈を意識したりして音読することである。3つ目は、文章を正確に読み取るために必要な語彙力を向上することである。今年度は、これら3つの課題を解決することで、子どもたちの「読む力」を高めるとともに、読んだことを生かして自分の考えを表現したり、深めたりすることで「書く」力の向上をめざした学習を推進させていくことにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 単元のねらいや本時のめあてに迫るための発問の工夫

- ねらいやめあてを指導者が明確にした上で、発問を工夫したり、精選したりすることで子どもたちの考えや意見を引き出し、書く力を高める。

視点② 効果的な音読方法の工夫

- 一文読みやリレー読みなど、様々な方法で音読すること
- 指導者が読む観点を提示してから音読することで、子どもたちが課題をとらえたり、要旨を掴んだり、文脈を意識したりする。

視点③ 語彙力を向上させるための日常的な取り組み

- 継続して視写を行い、文章表現の技法などを身に着ける。
- 朝の時間に読書タイムを設定するなど読書時間を確保することで、活字に触れる機会を増やし、多くの言葉を知る。

- 学校図書館司書と連携をはかり、図書館の開放や読み聞かせ、学級文庫の補充などに取り組み、普段手に取らないような本に触れる機会を設けることで、読む力の基礎となる「読みたい」という意欲を高める。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

視点① 単元のねらいや本時のめあてに迫るための発問の工夫

- 単元のねらいや本時のめあてに迫るための発問を工夫することで、子どもたち一人一人が自分の考えや意見をノートやワークシートに書く力を高めることができた。

視点② 効果的な音読方法の工夫

- 子どもたちの発達段階に応じた効果的な音読を取り入れることで、要旨を掴んだり、文脈を意識したりして音読することができ、読む力を高める一助とすることができた。
- 本時の課題を意識できるように読む観点を伝えてから音読することで、ねらいに迫るための過程を踏むことができた。

視点③ 語彙力を向上させるための日常的な取り組み

- 学校図書館司書との連携もあり、昨年度よりも読書に取り組む児童を少し増加させることができた。

その他

- 本文の重要語句などに傍線を引く活動に繰り返し取り組むことで、大切なキーワードを選び出し、まとめて書く力が身に付いてきた。
- 指導者が文型を示すことで、文章を書くことが苦手な児童が自分の考えを表現する支援となった。
- ペアやグループでの話し合いを取り入れることで、自分の考えをより深めることができ、文章を書く際にも生かすことができた。

(2) 今後の課題

- 単元のねらいやめあてに迫る発問の工夫に取り組むことで、読むための視点をもったり、自分の考えをもつ手立てになったりしたが、書く力をはじめとする技能を高める手立てとしては不十分だった。今後は「指定した言葉を使って決められた字数で書きましょう」や、「理由を2つ以上挙げて書きましょう」など、書く力を高める学習をさらに進める必要がある。
- 視写に取り組むことで、語のまとまりを意識して正しく読むことにつなげることができたが、より効果的な取り組みがないかを模索していく必要がある。
- さらに深い学びになる授業展開ができるように、指導計画の工夫を図る必要がある。
- 積極的に読書に取り組む姿は見られるようになったが、読書ノートへの記録に負担を感じる児童がいたため、読む意欲がもてる記録方法を考える必要がある。